吉田（よしだ）地区

葦の多い田であったことに由来するようだ。上吉田は、江戸時代前半まで神指町東神指にあり、その中で、次男や三男が新天地の吉田にうつったという。古墓の江川家墓あり「上吉田界沢引越」と彫られている。その墓には、「享保十九年（一六三四）」と「肝煎役二十年余」とある。上吉田の稲荷神社が老朽化に伴い、平成二十八年九月に解体されて、十一月に新築した時、屋根の柱に「正徳二年（一七一二）銘の墨書きが発見されたことから創建年が判明した。古墓の記録と神社の創建年代と合うことから、上吉田は、江戸時代の一七一二年に現在地に移ったことが分かった。その年代は、天然痘が大流行したことが『家世実紀』に書かれ、終息までには三年間かかっている。疫病により移転した可能性もある。地蔵尊堂は、宝暦三年（一七五三）に当初六体の地蔵尊が祀られたが、その後一体無くなり、現在五体で、子育て地蔵としてご利益がある。

上吉田の北西稲荷神社附近をほ場整備に伴い平成五年に発掘調査、館跡もしくは寺跡が検出されている。そこからは、戦国時代十六世紀の建物跡が発見され、当時は薬として使用されていた御茶を曳くための漆を塗った茶臼や瀬戸美濃窯の陶器、一六〇〇年から約十年しか焼かれなかった会津大塚山窯の陶器、一六〇〇年頃の会津本郷窯黒瓦が出土している。

矢玉遺跡と「亀の尾」

下吉田の矢玉遺跡からは、一二〇〇年前の種籾の品種を書いた「木簡」が平成六年の発掘調査で発見されている。種籾木簡は、五点あり、

「白和世」（しろわせ）二点、
「荒木」（あらき）一点、
「長非子（ながひこ）」一点、
「足張（すくはり）」一点

である。そのなかで、「足張」と「荒木」は明治以降も栽培され、徳島県や広島県に種籾が残っていた。「白和世」は、明治時代に東北地方で広く栽培され、明治二十六年（一八九三）の冷害時、山形県庄内町の阿部亀治が「白早生」の中に倒れなかった三本の穂を改良し三年後の明治二十九年「亀ノ尾」が誕生。

「白早生―亀ノ尾―陸羽一三三号―農林一号―コシヒカリ・農林一〇〇号」

亀ノ尾は大正四年十二月、高野村長森台の小野成屋が醸造試験所の湯ノ目巳五郎技師と酒米として「亀の尾」を栽培し大成功、全国に知られるようになったものです。それが末廣の「亀の尾」で、その後改良され麻生坊主と辰泉の「京の華」が誕生します。矢玉遺跡の木簡の中に「薦立篤弐巻右附石嶋所請如件」「十一月廿八日陸奥藤野」とあり、陸奥に住む藤野という会津郡の高官の役人が、石嶋という人物に薦二巻を請求したことを示している。下吉田には、善福寺があり、『新編会津風土記』によると文明の頃（一四六九から八七）に隆空によって建てられたという。その寺は、現在地ではなく、上吉田の北側、熊野神社附近に位置していた。平成五年にほ場整備に伴って発掘調査が実施され、館跡もしくは寺跡が検出されている。遺跡からは、十六世紀の茶臼や瀬戸・美濃焼の陶器、一六〇〇年から一〇年程度しか焼かれなかった会津大塚山窯の陶器、会津本郷の黒瓦が出土している。『新編会津風土記』によると慶長中に、宥秀という僧が中興している。

上吉田の集落は、江戸時代中期まで、西の神指町横沼近くにあり、洪水によって現在地に移転したことが古い墓地の墓に彫られている。

十里柳（じゅうりやなぎ）

若松城の大手門から十里あったためである。『北会津郡郷土誌』によると「府城より十里に当る故にその印として加藤嘉明(よしあき)植えしもの」。保科正之公以前の一里は、六町(六五四メートル)が一里だったため目印で植えたもので、十里柳の地は北出丸から六・五四キロある。明治三十九年(一九〇六)に暴風で倒れ、その後昭和三十四年の伊勢湾台風で倒れ、平成二十八年三月二十八日「永和の暮らしと歴史研究会」(平塚洋一郎会長)によって植えられた。

地蔵尊堂（上吉田地区）

五体の石造り蔵尊像が安置されている。真言宗弥勒寺末寺。この集落は、江戸時代中頃までは、神指町東神指にあったが、この地に江川一族が移転した。

言い伝えによると宝暦三年（一七五三）六体の地蔵尊が奉られた。のちに一体がなくなり、現在は五体である。子育て地蔵としてご利益があるとされ、現在も大切に守られている。地蔵様の腹掛けなどを縫って奉納する「腹んこ縫い」という行事が毎年二月に、村の女性たちの手で続けられている。

雷電山善福寺（下吉田地区）

真言宗豊山派。会津若松市大町観音寺の末寺、その前は磐梯町本寺の恵日寺。本尊は地蔵菩薩。檀家数は五戸。

『新編会津風土記』によると、開基は文明年間（一四五八～一四七六）降空という僧が開創したという。その後荒廃したが、慶長年間（一五九六～一六一四）宥秀という僧が中興したと伝えられる。現在の堂は、明治二十一年に焼失し、昭和二十三年五月に再建されたものである。なお、磐越自動車道の工事により、戦国時代末から江戸時代前半にかけて造られた一字一石経塚が工事により発見されたが、発掘調査はされなかった。

稲荷神社（上吉田地区）

氏子数十五戸、祭礼は地蔵尊と同じ八月二十三日。宮司は住吉神社。倉稲魂命（うかのみたまのかみ）を祀る。老朽化により平成二十八年九月に解体し、同年十一月に新築した解体修理の際、棟札に正徳二年（一七一二）銘の記録が発見されたことや上吉田の江川家古墓の記録から、上吉田集落が東神指から移転した年代が一七一二年前後であることが判明した。

稲荷神社（下吉田地区）

氏子数五戸、祭礼は八月二十三日。宮司は住吉神社。倉稲魂命（うかのみたまのかみ）を祀る。創建の時代は不詳。